

テーマ：やさしい心



加美中保育学習
（松井幼稚園にて）

生きる力をいかに育むか

松井小学校教頭 細尾道宏

「生きる力をいかに育むか」

今、教育現場が抱えている大きなテーマのひとつです。

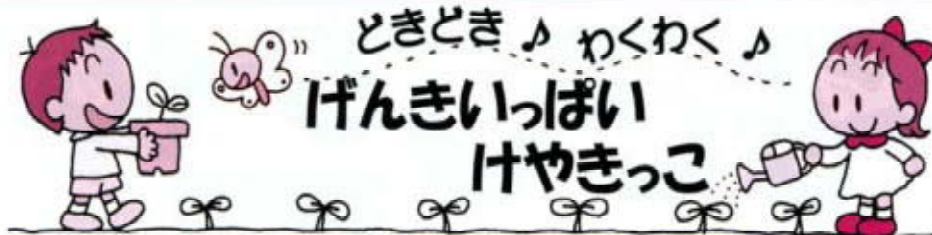
この課題について、12月に『思春期のライフスキル教育』プログラム』に関する町教職員研修会がライオンズクラブの共催で実施されました。その内容に興味を持ち、2月に大阪で開かれた2日間の研修会に参加しました。

このプログラムは、日常生活で生じる様々な問題を建設的に解決する能力（ライフスキル）を育むことを目標とし、その基盤となる、望ましい人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力や、感情をコントロールする技術を培うことを内容としています。研修会は、プログラムの概要・理論的背景の説明、授業体験、実施にあたってのポイント説明、参加者による模擬授業の実施など多岐にわたり、休憩時間もほとんどないほどの密な内容でした。しかし、近畿一円からの参加者には学校現場以外からの方も多く、新鮮な気持ちで、研修を楽しむことができました。

本来、子どもたちは、自分を取り巻く環境の中で、いろいろな人と出会い、信頼し合う経験を通して、「生きる力」つまりライフスキルを身につけていくものだと思います。しかし、環境が大きく変化した今、子どもたちの実体験の乏しさが、それを阻む要因にもなっているのです。

子どもたちが、しっかりとした人格を持ち、持てる力を十分に発揮できる健康な大人に成長するために、学校を核として、教師、保護者、地域に何ができるかを考えたとき、このプログラムは、効果的な支援策の一つであると感じました。

子どもたちの健やかな成長のために、この研修を生かしていきたいと思っています。



こころのそだち

人や生き物に対して、やさしい気持ちができるようになってほしいと願い、年間を通して飼育動物の世話や、花や野菜の栽培活動に取り組んでいます。また、保育所の子を園に招いての体験入園や、けやきグループの子（未就園児）とのかかわりを通して、人に対するおもいやりの気持ちが育ってくれば・・・と願っています。



野菜の苗を植え、大きくなるまで水やりをしたり草引きをしたりして、世話をしました。

飼育動物の世話をしたり、一緒に遊んだりしています。
「うさぎさん かわいいなあ〜。」



体験入園で、保育所の子と一緒に遊んだり、園内を案内したりしました。保育所の子に対して、やさしい口調で話しかけていました。

毎週木曜日は、けやきグループの子とも遊んでいます。



みんなげんき

キラリ★えがお



今日の朝の集まりは、どうだったかな？

朝の集会では、心暖まるエピソードを交えたお話を聞いています。
また、絵本の読み聞かせや紙芝居などを通して豊かな感情の育成に努めています。



困っている友だちに手を貸してあげる姿もみられます。



さり気なく、友だちを輪の中に誘ってあげる姿がみられます。

泣いたり、笑ったり、けんかをしたり……。毎日の生活の中で、友だちに対する『やさしさ』を学んでいる子どもたち。

春から夏にかけては野菜作り。秋から春にかけては花の一人一鉢栽培をしています。



水仙の芽が出たよ。

「うれしいね」「かわいいね」



みんなともだち



生き生きした表情で、友だちと遊んだり、自然とかかわったりしている子どもたち。そこには心と心のふれ合いがあります。結果や形のあるものにとらわれがちな世の中だからこそ、優しさや思いやりの心を大切にしていきたいと考えています。子どもたち一人ひとりの心の成長を願っています。



心と心のふれあい



(保育所との交流)



小さい子にも分かるように話すなど相手の気持ちを考えながら遊ぶことができました。普段おとなしい子がリーダーシップを発揮。新しい一面も見られました。

(小学校との交流)



縦割りのグループでの活動。人間関係に広がりが見られました。小学生に助けてもらって活動が盛り上がり、子どもたちは大満足。小学校への期待も膨らみます。

(地域の方との交流)



周りの人に見守られている、大切にされているという実感。それが自分自身を大切にしたい気持ちや友だちを思いやる心につながります。

みんな なかよし



3歳児と5歳児が月に一度交流する「仲良し活動」をしています。この活動を通して、思いやりの気持ちや憧れの気持ちが育つものと思っています。初めは、どう接していいのかわからず戸惑っていた5歳児も、経験を重ねることで丁寧に関わる姿が見られるようになりました。また、3歳児も構ってもらった心地よさを感じ、とても嬉しいような表情を浮かべています。

また、5歳児が0、1、2歳児の午睡後に着替えやおやつ準備をしています。その際、眠っている子の傍へ行き、寝顔を見つめ微笑む姿に、温かい慈しみの気持ちが感じられ、心の育ちを感じる瞬間です。



「今日はどこに行くの？」



「起きようね」

『やさしい心』を育むために

『やさしさ』は相手を『思いやる』こ

「やさしさ」とは、相手の思いを知ることから生まれるものだと思います。それは、頭の中で理解できることではなく、体験を通してこそ学ぶことができるものだと考えています。



なかよくする
かっぱつな子
きもちのやさしい
たくましい子

わんぱくタイム

毎週木曜日に6年生がリーダーとなり、縦割りの異年齢集団「わんぱく班」で遊んでいます。みんなが楽しめるように高学年に気配りの心が求められます。

感謝集会

20年以上前から続くこの集会、日頃お世話になっている方々に各家庭から持ちよって作った花束に手紙を添えて「ありがとう!」の気持ちを伝えます。

のぎく交流会

重度心身障害児施設「のぎく療育園」で鼓笛演奏を披露し、ゲームや歌で交流します。利用者の方々の笑顔から子どもたちは「やさしさ」をもらいます。

しあわせ配達人

ボランティア委員会が中心となって「しあわせ荘」へささやかな「しあわせ」のひとつを「配達」に出かけ、喜んでもらえる心地よさをいただきます。



心の花を咲かせよう

「思いやりの心を持ち、共によりよく伸びようとする子」の実現

(1) 全校的な活動として

- ・個や集団でのすばらしい行為を認め合う場として「心の花を咲かせよう」運動を展開した。
(学期に1回の心の花週間をつくる・廊下の掲示板によいこと花カードを貼る等)
- ・日々の学級の取り組みを全校的な場に広げることができた。



「いいことあったね」

(2) 学級の中で

- ・子どもたち一人ひとりに自信を持たせるように心がけてきた。
- ・個々のもつよさや集団として心を合わせることの素晴らしさを認めていくようにしてきた。

おじいちゃんおばあちゃんと

言の遊び大会

1月31日

やさしく教えてもらったよ。

お手玉・おはじき・あやとり・こま回し・べったん・ぶちごま回しなどをして、楽しく遊んだよ。



あやとり



こま回し

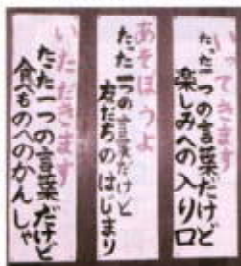


ぶちごま

友だち集会 (全校人権集会)

- ・一人ひとりを大切にする仲間づくり。
 - ・人権を重んじる心と、実践する意欲・態度の育成。
- 上記のめあてを達成するために、年に2回全校児童による友だち集会を実施している。

(第1回) 6月28日(水) テーマ「たった一つの言葉だけれど、とっても大切な言葉」



日々の生活における「言葉」を見つめ直す機会とし、自分の温かい思いを伝える「言葉」について考える。

たった一つのことばで、うれしくなったり悲しくなったりすることが、よく分かりました。これからは、人を大切にするこことばや、人がうれしくなるようなことばを言っていきたいと思います。

ことばって、本当に大切ななあと思いました。

(第2回) 11月22日(水) テーマ「友だちのことをもっともっと知ろう」



「友だち」について考えるひとときを持ち、仲良く楽しい学校生活を過ごすとする意欲を高める。

今日の友だち集会で、誰にもそれぞれにいいところがあるんだなあと思いました。自分が気づけなかったところも、友だちは見てくれていることが分かりました。私も友だちのいいところをいっぱい見つけたいです。そして、周りの人を大切にしたいです。そうすれば、私も大切にされるように思いました。

最後にみんなでしたゲームも、とても楽しかったです。



やさしさいっぱい 학교に ~心を育む杉原谷小学校の教育~



<絵手紙体験学習>

6年生は、総合的な学習で地域の方を講師に迎え絵手紙を書きました。送り手を頭に浮かべながら書いた絵手紙に書かれた言葉は、いつもありがとう・長生きしてね・仕事ご苦労様などなど・宛先は様々でお家の方、遠くに暮らす祖父母・兄弟、そしてなかには近所の一人暮らしのおばあさんに書いた子もあり大変喜ばれました。



<田植え体験>

ペアを組んだ幼稚園の子をきづかう4年生。



<福祉体験>

わたしたちにもできるボランティアあるかな。

杉原谷小学校では、子どもたちの心を育むために、

- ・年2回の人権集会
- ・総合的な学習で福祉について学んだり、環境へのやさしさとして省エネについて学ぶ
- ・ペア学年制を取り入れ異学年の交流を図り思いやりをもって人に接する態度を学ぶ
- ・祖父母、地域の方との交流を積極的に行う
- ・道徳授業の充実
- ・多くの体験活動(全学年による紙漉きなど)を行う

などの取り組みをしています。

様々な取り組みの中から見えてきた子どもたちの様子を紹介します。

八千代北小学校

ささゆり活動

—異年齢集団の中で育ち合う子どもたち—

ささゆり活動は、八千代北小学校の児童会活動の愛称です。その活動は、1～6年の異年齢で構成する「ささゆり班」（8班編成）を単位として行います。

ささゆり大なわ集会

ささゆり班ごとに8の字跳びにチャレンジしました。大事にできなかったのは、練習する過程と高学年のリーダーシップでした。

練習する中で、けんかをしたり悔し涙を流したりする子もありましたが、本番では、班全員が心を一つにして跳んでいる姿がとても印象的でした。

このような活動を積み重ねることによって、社会性や責任感・思いやりの心を育てたいと願っています。

みんなで
ジャンプ！！



学校行事

- ・田植え
- ・稲刈り
- ・運動会

児童会

- ・なかよし遠足
- ・ささゆり集会（学期に一つ）

その他

- ・ささゆり遊び（毎週木曜日）
- ・ささゆりそうじ



がんばって歩いたよ
（なかよし遠足）

大なわ跳びをするとき、最初しっぺり回せるか不安でした。私は、手前の方で跳ぼうとする子がいたら、「できるだけ低くして跳びやすくしてあげない」ととか「速く回しすぎないようにゆっくり回そう」とか色々考えていました。私たちの班は、少ししか跳べなかったけど、みんな頑張っていたし、失敗してしまった子を責めなかったのがよかったです。

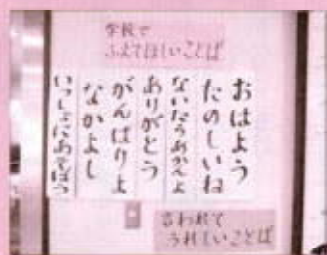
（6年 児童作文）

八千代南小学校

思いやりの心を持ち、自ら実践していこうとする子の育成

言葉の木切ぎ

1月15日（月）の全校朝会で、校長がいろいろな言葉を例示して、それらを「人を気持ちよくさせる言葉」と「言われていやになる言葉」に分けました。後者の言葉には「あっちへ行け・あほばけ・きもい・むかつく」などがありました。それらの言葉を学校からなくしていこうという話をしました。他の子を思いやる、やさしい心を持った子どもがふえてほしいという願いからです。



命の木切ぎ



1月25日（木）に阪神・淡路大震災で娘さんを亡くされた上野政志氏を迎えお話を聞きました。震災当時の様子や娘さんの死を通して、生きることの大事さを熱く語られ、人の命の重みがずしりと心に伝わってきました。

八千代西小学校



「やさしさって、こんなことか」と生活の中で思えるヒントがたくさんありました。

2月1日は、本年度最後の参観日。学習参観に引き続き、体育館で『親子人権の集い』。シンガーソングライター小西達也さんのコンサートです。すてきな歌とともに「心が大切だよ」「命は尊いんだ」「自分らしさを失わずがんばろう」...と3つの大切なメッセージを届けてくださいました。

コンサート最後には、全児童から感謝の気持ちを込めて、「おくりもの」の歌を小西さんにプレゼントしました。

親子人権の集い

シンガーソングライター

小西達也さんをお迎えして

2月1日、姫路在住のシンガーソングライター小西達也さんをお迎えして、『親子人権の集い』を開きました。

小西さんは、『まちのオッチャン』の視点に立って、車椅子から見える人権についてわかりやすく語りかけ、歌をとおして「やさしさ」の種を蒔いていらつしやる方です。すてきな方をみんなでお迎えでき、本当によかったと思います。



「人権って、とても大きなことには思えるかもしれないね。でも、そんなことはないんだよ。みんなは、教室のすぐ傍の友だちのことを忘れていないかい？ 隣の席に休んでいる子がいたら、どうしているかな」と思っているのかな？ 机の上には1日、プリントが置かれたままなんてことはないかな？ 机が独りぼっちになつて、1人の子がみんなから忘れられていることはないかな？ オッチャンはそう思います（小西談）



体温(ぬくもり)の伝わりをありがとう、小西

優しさ育む生徒たち

本校の主な取り組み

いじめ解消への学習・人権作文・弁論大会・生徒会活動
人権講演会（障害者問題）・交流授業・震災集会・道徳授業等を通して

ユニセフボランティア活動

【100円で鉛筆とノートを8人に配ることができる】

昨年12月に生徒会がボランティア活動としてユニセフへの募金活動を行いました。

「世界で貧困や病気に苦しむ子どもたちを助けるためにユニセフ募金をしたい」と生徒会から全校生に呼びかけたところ、集まった金額は予想をはるかに上回るものとなりました。

生徒会より「一人ひとりの1円・10円の小さな力が大きな力となって世界で苦しむ誰かの命を救います。今、みなさんの温かな善意の心が伝わり、世界のどこかで誰かが笑顔になっています。ありがとうございました。」34,182円の募金が集まりました。



北はりま養護学校との笑顔あふれる交流



1年生が1学期から2学期にわたってクラス単位で交流会をもちました。6月には金比羅さんまでの歩行訓練・グラウンドゴルフ・ボーリングを共にして、教室ではお互いの紹介や特技などの発表をしました。11月には体育館でエアロビクスをし、特徴をとらえた似顔絵を書いてプレゼントしました。みんなの笑い声が響く楽しい交流会となりました。

中町中学校

加美中学校

11月11日(土)の午後、恒例の人権弁論大会が行われ、各学級での予選で選ばれた学級代表7名が熱弁をふるっていました。自分の体験をもとにした弁論が多く、加美中生らしい素直な心や目で家族や社会、そして人の生き方を見つめた心に残るものばかりでした。ここでは最優秀賞に選ばれた山口さんの「違いを越えて」を紹介いたします。

山口さんのお宅では、この夏に教育交流で来日したミドルタウン中学校の生徒のホストファミリーを引き受けていただきました。そのときの体験から学んだ「伝えあう心の大切さ」を説得力あることばで述べています。(学校通信12月号より)



山口沙絵

違いを越えて

私は、この夏に多可町の姉妹校であるアメリカのミドルタウンからの中学生をホームステイで受け入れました。5日間という短い間でしたが、私はこの5日間であらゆることを学びました。

その中でも私が一番大切だと感じたことは、相手を思いやる事です。私の家に来た子は中学生1年生のナタリーという女の子です。今まで顔も見なかった人の子で、その子にはとても不安なことだらけななと思いました。速くアメリカから11時間もかけてきた日本。彼女はどんな生活だったのか？言葉も違えば、髪も肌も目の色も生活もたくさん違うところがあります。でも、心と心が通じ合っていれば、きっと伝わると思っていて彼女は日本に来たんだと思います。(略)



また、うちの祖父と祖母は英語が全く喋れません。だから寝る前などは「おやすみ」と伝えたいのでジュースチャイを使っていました。気持ちが伝わったのか、彼女はお別れの日、自分から祖父と祖母に抱きついていました。

不安になっていくときでも一つの言葉やほんの小さな行動で、その不安が少しずつなくなりまします。彼女が一言「サンキュー」と笑顔で言ってくると私はとても嬉しくなりました。彼女がとびきり笑顔で返してくれたのはきつと私達の気持ちが伝わったからだと思っています。

私達はみなそれぞれ異なる考え方を持っていて、意見の違いもあって当然だと思っています。今、日本ではたくさん世界のニュースが流れてきます。そのニュースを見て、ある国の人たちを偏った見方で見てしまいがちな時もあります。世界にはたくさん人の人が住んでいます。そのたくさんの人たちは皆いろいろな考えや夢をもっていると思います。私は流れてくるニュースだけをみて「あそここの国は貧しい」とか「あそここの国は危険」とか、ついつい外見で判断してしまいがちになります。けれどその国を知って、理解しようという気持ちを持ち、受け入れようと思うことで分かち合うことができると思います。(略)

今回の交流では伝えあう心の大切さを学びました。これからは相手の国の言葉や文化をもっと学んでいきたいです。そして偏見がなくなり、戦争がなくなり、世界が仲良くなればばいいな、もっと深く相手を知ることによって争いはより固いものになっていくことを信じて・・・ご静聴ありがとうございました。

八千代中学校

昨年度に続き、1年生(67名)による北はりま養護学校交流会を実施しました。中学生として成長してきた生徒たちは、準備から当日の後かたづけにいたるまで、協力して取り組むことができました。

交流会の感想は以下の通りです。この交流会を通して、思いやりの心を育て、共に生きる社会の一員としての自覚を深めるといふ学校目標が達成できたのではないのでしょうか。また、全校生徒に実施した生活アンケートでも「思いやりの心で人に接している」と答えた生徒が8割を超えています。「やさしい心、が「やさしい心、を育てる。これからこうした環境作りに取り組んでいきたいと考えています。



平成18年10月5日(木)

北はりま養護学校交流会

僕たちは、風船バレーをしました。結構おもしろかったです。でも、最後は〇〇君が、他の班の所へ行ってしまったので、そこで一緒にしました。今日はいい体験ができました。また、こういう体験ができるいいと思います。(1年 男子)



風船と一緒に遊んでいるときに、笑ってくれたので楽しかったです。はじめは「楽しくないのかなあ？」と思っていたので…バスの見送りの時、バスの中にプレゼントした風船を〇〇君が持っているのをちらっと見ました。「〇〇君のいい思い出になったらいいなあ」と思いました。(1年 女子)



一緒に写った写真にメッセージを添えて



遊ぶ時間は約40分という短い時間でしたが、養護学校の人たちも楽しそうに遊んでいたし、私もその子の笑顔を見ていると、こっちも笑顔になりました。身体にハンディはあっても、心は元気はつらつで、本当にいい子ばかりでした。(1年 女子)

平成19年度 多可町に導入予定のプログラムです

「思春期のライフスキル教育プログラム」とは

青少年が「自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切にする健康的な人物」として成長する過程で大切なコミュニケーションスキル、感情のコントロールスキルなど包括的な「生きる力」を体系的にカリキュラム化したプログラムです。

子どもが

学校で学びたいこと※

- 周りの人と仲良く付き合う力
- 自分の考えを言葉で伝える力
- 困ったときにどうしたらよいか考える力

ライオンズ クエスト
Lions Quest

『思春期のライフスキル教育』
プログラム

大人が

学校で教えたいこと※

- 教科の基礎的な学力
- 善悪を判断する力
- 人間関係を築く力
- 自分の考えを表現する力

※平成17年度文部科学省「義務教育に関する意識調査報告書」学校教育で身につけるべき能力や態度に関する意見（小中学生／教員・保護者・学校評議委員・教育長・首長対象）

何に役立つ？

思春期の子どもが抱える悩みの上位は人間関係のストレスが占め、これに深く根差した少年犯罪が増えています。このプログラムは、暴力やいじめに訴えることなく、問題を建設的に対処する方法を学び、暴力や犯罪を自分の意志で予防的に回避する力と、生きていく上で不可欠な自己肯定感（自尊心）を育てるプログラムです。



このプログラムの著作権はライオンズクラブ国際財団（LCIF）が所有しており、プログラムの開発・普及活動は、ライオンズクラブと青少年育成支援フォーラム（JIYD）のパートナーシップにより行われています。

プログラムの特徴は？

青少年の判断や自尊心、自分の考えを言葉で伝える力を得たいという需要から生まれました。生徒参加型・実践型授業で、すぐに使える具体的なスキルを学ぶことで、高い理念に少しずつ近づいていきます。主に、中学校の、総合的な学習の時間、道徳の時間、特別活動の時間などで活用されています。

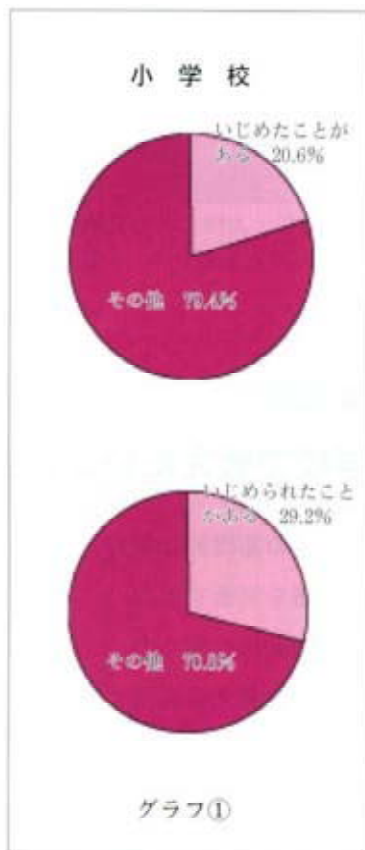
教材は9単元、79授業分の教師用手引書の形になっています。

- 単元1 十代の始まり：待ち受ける試練
- 単元2 本当の自信とコミュニケーションスキルの形成
- 単元3 心の成長と感情のコントロール
- 単元4 友人関係の改善
- 単元5 家族の絆の強化
- 単元6 薬物に関わらない健康な人生
- 単元7 健康な生活のため目標設定
- まとめ
- ボランティア体験活動

昨年度、いじめにより児童生徒が自らの命を絶つという痛ましい事件が相次いで発生しました。多可町教育委員会として、町内の小中学校におけるいじめの実態調査を実施するとともに、学校教育に携わっている者全てがあらためていじめの問題は「命」に関わる重要な問題として認識し、教職員が子どもを守ることを第一として対応していかなければならないと考えています。

【町内小中学校いじめの状況】

10月から11月にかけて各学校でアンケート調査を実施しました。小学校で、「いじめたことがある」と答えた児童は20・6%、「いじめられたことがある」と答えたのは、29・2%（グラフ①）中学校では、「いじめたことがある」は17・5%で「いじめられたことがある」は17・5%です。（グラフ②）



この数字を見ると、いじめた子どもはいじめたという認識が薄いように思われます。

平成17年度のいじめの件数は、小中学校ともに2件ずつありました。また、平成18年度においては、小学校では7件、中学校では2件の事例が報告されています。主な内容は、友だちを仲間はずれにすることや冷やかす、からかいなどが中心でした。

- ①表に出ない陰湿ないじめに注意していく。
②いじめは常にあるという前提で取り組んでいく。
③どんな小さなことでも見逃さなないように対応する。

に気をつけなければならないと思います。

多可町教育委員会としては、いじめをなくすために、次の2点を中心において取り組んでいきます。

【人権教育の推進】

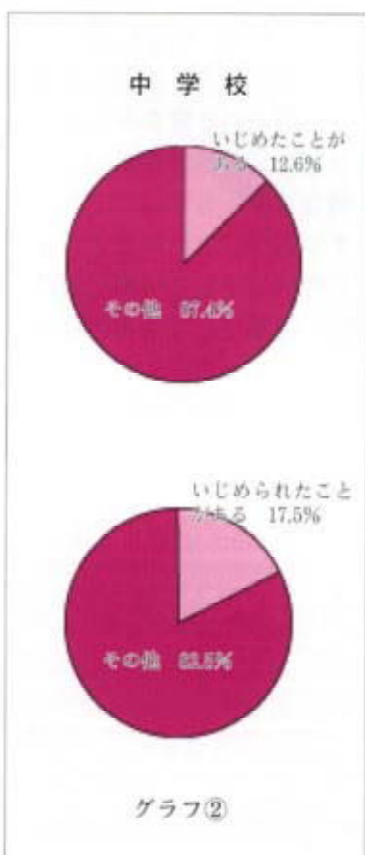
道徳・人権教育の中で、生命のかけがえのなさ、生きることの尊さ、命を大切にすることの自覚などを学ばせ、正義、思いやり、人権問題など、自分の心を見つめさせる授業を進めています。仲間はすれや人の心を踏みしめる行為は許されないことを子どもたちの心に訴えたり、いじめにあったりしたときどうするか、いじめを見たときどうするかなど具体的なスキルを身につけることも必要で、今後も引き続き命を大切にする教育の推進を図っていきます。



【家庭・地域社会・学校の連携】
PTCA (Parents' Teacher Community Association) の連携を大事にし、学校教育を考えています。

日ごろからの健全なる学級経営を展開していくことが、いじめの根絶につながると考えます。毎月の校長会や教頭会でも、必ず安全といじめ問題を議題とし、実態を出し合い情報交換をし、すべて学校園の共通理解を図っています。

教育委員会は、子どもの味方でありかつ教職員や学校の応援団でありたいと考えています。



【いじめ問題への緊急提言】

教育再生会議より

①学校は、子どもに対し、いじめは反社会的な行為として絶対許されないことであり、かつ、いじめを見て見ぬふりをする者も加害者であることを徹底して指導する。

②学校は、問題を起こす子どもに対して、指導、懲戒の基準を明確にし、毅然とした対応をとる。

③教員は、いじめられている子どもには、守ってくれる人、その子が必要としている人が必ずいるとの指導を徹底する。

日頃から、家庭・地域と連携して、子どもを見守り、子どもと触れ合い、子どもに声をかけ、どんな小さなサインも見逃さないようコミュニケーションを図る。

いじめ発生時には、子ども、保護者に、学校がとる解決策を伝える。いじめの問題解決に全力で取り組む中、子どもや保護者が希望する場合には、いじめを理由とする転校も制度として認められていることも周知する。

④教育委員会

員会は、いじめに関わ

たり、いじめを放置・

助長した教

員に、懲戒

処分を適用



⑤学校は、いじめがあった場合、事態に応じ、個々の教員のみ委ねるのではなく、校長、教頭、生徒指導担当教員、養護教諭な

どでチームを作り、学校として解決に当たる。生徒間での話し合いも実施する。

教員もクラス・マネジメントを見直し一人一人の子どもの人間関係を築きなおす。教育委員会も、いじめ解決のサポートチームを結成し、学校を支援する。教育委員会は、学校をサポートするスキルを高める。

⑥学校は、いじめがあった場合、それを隠すことなく、いじめを受けている当事者のプライバシーや二次被害の防止に配慮しつつ、必ず、学校評議員、学校運営協議会、保護者に報告し、家庭や地域と一体となって解決に取り組む。学校と保護者との信頼が重要である。また、問題は小さなうち（泣いていた、さびしそうにしていたり、けんかをしていたりなど）に芽を摘み、悪化するのを未然に防ぐ。

⑦いじめを生まない素地を作り、いじめの解決を図るには、家庭の責任も重大である。保護者は、子どもにしっかりと向き合わなければならない。日々の生活の中で、ほめる、励ます、叱るなど、親としての責任を果たす。おじいちゃんやおばあちゃん、地域の人たちも子どもたちに声をかけ、子どもの表情や変化を見逃さず、気づいた点を学校に知らせるなどサポートを積極的に行う。子どもたちには「いじめはいけない」「いじめに負けない」というメッセージを伝えよう。

⑧いじめ問題については、一過性の対応で終わらせず、教育再生会議としてもさらに真剣に取り組むとともに、政府が丸となつて取り組む。（前文省略）

一人で悩まないで
相談しましょう。

多可町教育委員会では、青少年育成センターによる「ひょうごっ子悩み相談」を開設し、いじめ、不登校、友人関係や進路などで悩んでいる児童・生徒や保護者などの相談に応じています。

「心配なこと、悩んでいること、学校のこと・・・」何でも気軽に相談ください。

ひょうごっ子悩み相談窓口

多可町青少年育成センター
（多可町中央公民館内）

0795-32-3423
毎日 9:00~17:00
（12月29日~1月3日は休み）

ひょうごっ子悩み相談センター

0120-783-111
（フリーダイヤル）

電話相談：毎日 9:00~21:00
（12月28日~1月3日は休み）

面接相談：予約制 9:00~17:00
（土日曜日・祝日12月28日~1月3日は休み）

とにかく
お電話
ください。

どこか遠くへ
行ってしまいたい

親とよく
言い争いになる

友だちによく
いじめられる

学校について
悩んでいる

たばこや
万引きを
勧められた

公立高等学校（全日制普通科）の入試が変わります！！ ～知っていますか？新しい選抜制度～

新しい選抜制度が平成19年度から北播学区で始まります。

新しい選抜制度とは？

- (1) 学校の特色や自分の適性・進路希望などに応じて、学びたい学校が選べるようにするための選抜制度です。
- (2) ①複数志願選抜と②特色選抜の2種類があります。
- (3) 全日制普通科の公立高等学校で実施します（ただし、単位制高等学校は除きます）。



	①複数志願選抜	②特色選抜
内 容	個性や能力に応じて学校を選択し、1校または2校を志願できます。	高等学校が、その特色に応じて受験生のさまざまな個性や能力を多面的に評価します。
実施時期	学力検査による入学選抜日程と合わせて実施します。	コースや専門学科などの推薦入学の日程と合わせて実施します。
実 施 校	北播学区の公立高等学校全日制普通科8校で実施します。 県立：西脇、三木、三木北、小野、北条、吉川、社、多可 志願パターン ①第1希望のみ ②第1希望+第2希望のみ ③第1希望+第2希望+第1・第2希望以外の入学希望あり	【例1】（県立西脇：科学教育類型） 将来、科学技術や理科・数学教育の分野に携わることを目指す生徒を対象に、自然科学分野におけるものの見方と創造性、研究心を培うとともに、コミュニケーション能力や倫理性を養う。 【例2】（県立多可：福祉ホラソティア類型） 福祉の専門科目の学習や、地域の福祉施設・幼稚園等と連携した体験学習及び総合的な学習の時間における地域福祉をテーマにした学習等を通して、福祉の精神を育む。
募集定員	募集定員から特色選抜での合格者数を引いた人数です。	各学年の募集定員の15%以内とし、その割合は高等学校長が決定します。ただし、最大は40人としします。
合否判定	- 調査書の学習評定と学力検査の成績を合わせた総合得点（素点）と調査書の各教科の学習の記録以外の諸記録を参考に総合的に合否を判定します。 - 第1志望を優先するため、第1志望には一定の加算点（35点）を加えて合否を判定します。	- それぞれの志願先高等学校において面接を実施します。また、必要に応じて実技検査、小論文（作文）を実施します。 - 当該高等学校の特色ある教育内容に即して、面接及び実施した検査等の結果と調査書を総合して合否を判定します。

※詳しくは、兵庫県教育委員会HP（兵庫県教育委員会＞学校教育＞公立高校入試）
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/nyuusi.html>